

# 秩父乃杜

秩父神社社報  
柞乃杜(ははそのもり)

第 10 号

平成6年7月23日



秩父嶺の

聳ゆる峯の

杉の穂は

鋸立つどえ

青みきたりぬ

## ははそ葉の母巣の杜

いまや地表の七パーントに激減した 世界の森林を想うとき  
いまだ国土の六十七パーントに 森林を維持することの大切さを知る

私たちの先祖は 昔むかし スサノヲという神さまが ご自分の髭を抜いて杉と成し  
胸毛を抜いて檜と成し 尾毛を抜いて楓と成し 眉毛を抜いて楠と成された という

スサノヲノミコトは その御子イタケルノミコトに命ぜられて これらの樹々の種を  
日本の島々に隈なく播かせ この國の至るところを 青山成す緑の列島にした という

森は母なる〈杜〉——土を肥やし大気を清め水を貯え あらゆる生きものたちの棲みか  
人々も又 森に育ち森の水を飲み 森の生き物を食べ森の木を使って 文明を築いたはず

父の実の秩父の里 母そ葉の母巣の杜は 御祖なる恵みの森を 今に伝える鎮守の杜  
峨峨たる武甲の山肌に繁茂する森深く 鎮まる大神の出でます杜なのだ

## 五十猛命

初め五十猛神  
天降ります時に  
さはこだねもくた  
多に樹種を将ちて下る

しかれども韓地に  
殖ゑずして  
盡に持ち帰る

遂に筑紫より始めて  
おほやしまのくに  
凡て大八州國の内に  
播殖して青山に成さず  
といふこと莫し

このゆゑ  
所以に  
五十猛命を稱けて  
いさをし  
有功の神とす

即ち紀伊國に所坐す  
大神是なり

## 解説 秩父神社(10)

楠宣浅見武史

### ◆ 国宝短刀「秩父大菩薩」銘 —謙信景光— つづき



今から六七年前の元亨三年(一一二三)更にその二年後の正中二年(一一二五)に、備前長船の名工 景光景政によつて大小二振の刀が作刀された。その二振の刀身には、当社の古い御神号「秩父大菩薩」の銘が見事に刻まれている。作刀依頼者は、當時地頭として播磨国六粟郡三方西を治めていた丹党中央村氏の庶流である。大河原入道沙

埼玉県史によると、「この文書自体が播磨国で作成されたというのではなく、当社造営から間もない頃、山下政所で一件書類をまとめて筆写したもので、當時、丹党中央村氏の惣領は播磨国に移住して居り、秩父に居た中村行郷は一件書類を播磨に送りその指示に従つて修造事業を進めていたのである。大河原氏が三方西に居住していたことから中村氏の惣領もまた三方莊に居たと推定される」と解説している。

史料は当時の造営の諸手続、更には神社祭礼の折の流鏑馬などの神役、又これらに関連する国衙からの公事等を頭役のかたちでつとめていた。郡内各郷には「宮郷」(社家の直轄領)があり、当社殿修造も順調であったが、承久の変(一二二一)の戦

のときは残念ながら現在まで定かではない。ただ元亨三年作の短刀は、上杉謙信の愛刀となり後世「謙信景光」の名で親しまれ、昭和三十一年に国宝の指

定を受けた。

鎌倉末期、この頃の当社の歴史を知る唯一の史料は、徳治元年(一一〇〇)末か翌二年初頭のものと推定される。中村行郷が書残した「御造営時之申状」が文書等次第」を含む四点の文書。その文書には播磨国山下政所で書いたといふ注記がある。

中村行郷が書残した「御造営時之申状」が文書等次第」を含む四点の文書。その文書には播磨国山下政所で書いたといふ注記がある。

埼玉県史によると、「この文書自体が播磨国で作成されたというのではなく、当社造営から間もない頃、山下政所で一件書類をまとめて筆写したもので、當時、丹党中央村氏の惣領は播磨国に移住して居り、秩父に居た中村行郷は一件書類を播磨に送りその指示に従つて修造事業を進めていたのである。大河原氏が三方西に居住していたことから中村氏の惣領もまた三方莊に居たと推定される」と解説している。

史料は当時の造営の諸手続、更には神社祭礼の折の流鏑馬などの神役、又これらに関連する国衙からの公事等を頭役のかたちでつとめていた。郡内各郷には「宮郷」(社家の直轄領)があり、当社殿修造も順調であったが、承久の変(一二二一)の戦

八幡神社に、大河原備中守之清が寄進した刀がある。「波賀町誌」によれば、

「宮本地頭」(社領の惣領)を勤めるこの頃は郡内の郷地頭等への指導力も弱まり社殿修造もはかどらなかつた。その為、中村行郷がこのような状況下に当時、当代きつての名工の作刀二振が寄進されたのである。(造営文書は県史資料編に全文収載)

### ◆ 「宗光 勝光」銘 脇差



刀身に「八幡大菩薩 銘備州国住長船

次郎左衛門尉勝光作 波賀上之方八幡

宮為御劍末代天文九年(一五四〇)八月吉日

丹治大河原備中守之清奉籠之也」とある。

波賀町はかつて「秩父大菩薩」を作刀した地。大河原入道沙弥藏連、丹治朝臣時基の末裔と思われる丹治大河原備

中守之清が先祖の例に倣い、彼の地の八幡社へ、更には当社へも勝光宗光に命じて作刀し寄進したものと思われる。

二一〇年余を経た時の流れの中にも変わることなく、丹党一族が遠く離れた故郷の宮に尊敬の誠を捧げたという、この武藏武士の床しい心根に感激をえるものである。



宗光 勝光 銘 脇差

## 「千年の森」に学ぶ

宮司 蘭 田 稔

五月の連休の混雑を避けるようにして四月末の数日、わたしを含めた一行四人は慌ただしく米国西海岸の森林地帯を二ヵ所ロケハンして帰ってきました。この旅は、「森のエンサイクロペディア」という一連のドキュメンタリー・ビデオ製作をすすめるに当たつての打ち合せと現地視察のためでした。

そしてその場所は、オレゴン州北端のポートランドから国道5号を一三〇キロほど南下したコーヴアリスという町の、郊外から南北に西海岸一帯を占める広大なシウスロー国有林と、もう一つは、そこからさらに三〇〇キロ南のカリフォルニア州に入つて直ぐにあるスマス・リヴァー国立保養地の有名なレッドウッドの森です。もつとも、この二ヵ所の天然林には始めからロケハンを狙つて訪ねたわけではない。コーヴアリスに住む民間の森林生態学者クリス・メーザー氏を訪問して、一方は彼に二日間案内してもらつた森で、他方のレッドウッドも彼の強い勧めにしたがつたまでのことでしたが、おかげで私たちは、あらためて森の生態の厳粛な実相にいささか触れることができました。

「自分は少年時代のシウスローの森で育つた」と言いきるほど現地の森林にくわしいメーザー氏は、数ヵ所の天然林や人工林、それに伐採地にまで熱心に案内して、ズブの素人の私たちに囁んで含めるように森の生態を教えてくれました。そして、その彼が何度も繰り返すのは、現代の林业や近代林业が、いかに「木を見て森を見ず」か。森をただの木材資源としか見ずに、なぜ森を

生きものたちの母胎と見ないのか、どうして地上の立木ばかりを見て、その根や土壤の地下を見落としているのか、ということでした。また森林の自然倒木ばかりか自然発火による森林火災さえも決して悪いことではない。実は、それらによる腐食や焼却が、たくさん若木や多くの生物を育てたり淘汰したりして、土壤を肥やし水を貯えながら森全体がさまざまな生死のドラマを繰り返し、やがて川を育て海を豊かにしてきたのを、近代産業としての林業や森林学がいまだない見据えようとしていない、という厳しい批判でした。

私たち、急峻な谷間や深い原生林をまるで自分の庭のように案内するメーザー氏の解説に聞き入り、また樹齢千年の老樹や、高さ一〇〇メートルを超える巨木の林立や、岩のよう横たわる倒木に圧倒されながら、いまさらのように森林の壮大な生命の営みに畏怖の念を深く覚えずにはいられなかつたのです。

そして古代の日本人が、なぜ聖なる森を「杜」と書き表したかを知ったのです。それは、彼らが大切にする森は、単に樹木の集まりではなく、<sup>(八)</sup>を肥やし水を貯える恵みの「杜」だったからだということでした。

実は、わたしが森の本格的な記録映像化への協



力を引き受けたのは、その映像製作が、今秋九月二十四日から三日間、伊勢で開催するよう私たちが準備を進めている「千年の森に集う会」という国際会議での参加企画だからでした。

この「千年の森」というのは、時あたかも昨年の秋、実に千三百年も前から二十年ごとに続く式年正遷宮が行われた伊勢神宮の森を指すのです。神宮の広大な神域林や宮域林は、神々の鎮まる神聖な森として古来大切にされてきました。しかも、この森は檜や杉だけの人工的な単相林ではなく、自生の広葉樹や針葉樹が入り交じった天然の多相林として保続され、遷宮の用材とする時も御神木として大切に利用されてきたのです。

私たちは、この神宮の「千年の森」こそが、全国神社のいわゆる「鎮守の森」の代表であり、またそうした聖なる森を守り育ててきた日本人の床しい心根こそが、いま世界規模で進行する森林破壊を食い止めて、新たな「千年の森」を世界中に育て大切にする気運を呼び覚ますのではないか、と考えたのです。

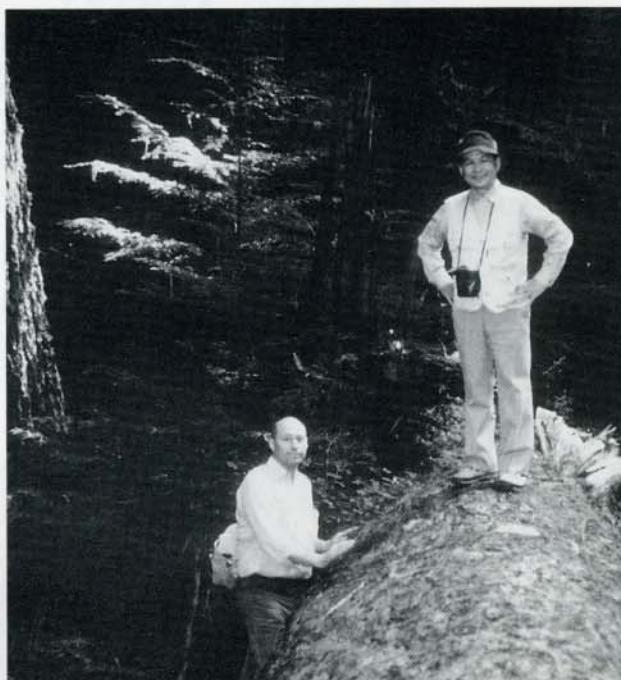
そこで、今秋その伊勢で開く国際会議には、日本の伝統文化に根ざし、しかも先端科学や先端産業を取り込んだ新しい「森の文明」を世界に提唱すべく、多方面の学者、農林漁業者、実業家、若者たちに呼びかけて、コンサートやワークショップなど楽しい催しを交えての三日間の会議を準備しているのです。

ひるがえって郷土秩父のシンボルであったはずの「ははその杜」は、今や地表面積の七パーセントにまで減少して瀕死状態の世界の森林をまるで目のあたりにするように、残念ながら近ごろ見る影もないあります。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

表紙の和歌は、去る五月三日にご逝去された秩父郡皆野町下日野沢住、故新井武信氏の歌集「溪流」に掲載されたものです。養蚕を暮らしの糧に長く近隣の御社の宮司を勤める傍ら、秩父の民話昔話を題材に、「日野沢雜話」「秩父よもやま話」などの著書を手掛けられています。

三峯神社社報においては創刊号より最新号まで、欠かす事なく寄稿を続けられ、満九十三歳でお亡くなりになるまでの間、秩父の自然風土を題材に多くの和歌をお詠みになられました。



さまです。

全国の古社のなかでも珍しく「ははそ」という床しい名で先祖たちが守ってきた我が社の森も、かつて一万坪の鬱蒼たる神苑が半減し、市街地開發で地下水を断たれた上に産業公害や台風被害が重なって、樹齢数百年におよぶ櫻や杉や檜の古木群がすっかり死滅してしまいました。「父の実の秩父の里、母そばの柞の杜」と文字どおり父母の故里と歌い継がれた我らが鎮守の杜は、何としても再び「千年の森」に再生しなければなりません。ご崇敬各位挙げてのご奉賛で進行しつつある平成御大典奉祝記念事業の完遂もさることながら、「柞の杜」復興こそが、今後百年の計というべき当社の課題なのです。



氏子青年会前会長 今井奎吾

平成六年度氏子青年会総会をもちまして、会長を退任する事となりました。会発足以来四年間、宮司様を始め職員の皆様、又関係各位の皆様方には多大なるご支援ご協力を賜りました事、心より御礼申し上げます。

氏子青年会もいよいよ五年目に入り、現在の会員数は五二二名となりました。まだ勧募中の地域もあり、最終的には五五〇名位になるかと思われます。

「観月コンサート」「武甲山登山」「境内清掃」「視察旅行」等、今後も続けられていく事と思われます。本年も種々の企画が準備されておりますが、各事業が成功する為には全員のご協力がなければなりません。今までにも増して、多くの仲間がこの活動に参加されます事を強く念願致します。

私の人生中盤で、氏子青年会を通してこんなに多くの素晴らしい友人に出会えた事を、これから的人生の財産としていきたいと思っております。神社様及びに氏子青年会が益々多くの発展を遂げます事と、会員皆様方のご健勝ご多幸をご祈念申し上げつつ、会長退任のご挨拶とさせて戴きます。四年間に亘り大変有り難うございました。



氏子青年会会长 浅賀勝彦

 私共新役員一同、本会結成当時の原点を忘れる事なく、秋父神社様を核として、職場を越え、地域を越えた仲間と交流を深め、郷土秋父を愛する志を語り合い、真に魅力ある秋父のマチ造りに寄与してゆく所存でございます。

画に従い、様々なご案内が会員各位にご連絡されると思います。ともかくご参加下さい。参加する事が「氏青」です。

集い、語り、喜びを共にする時。そこにコミュニケーションが生まれます。コミュニケーションはマチ造りのはじまりです。本当に氏青の目指すところではないでしょうか。

本会結成以来お骨折りいただき、今回勇退された今井前会長、山中前副会長には心より感謝申し上げたいと思います。今後も様々な面でご尽力ご助力を賜りたいと思いますので、宜しくお願い致します。

会員各位のご協力ご提言を支えにして、会員一同新年度に乗り出す事になりますが、会員倍のご参加ご協力をお願い申し上げ、役員を代表してのご挨拶とさせていただきます。

事務局	会計事	監理	直前事長	副會長	顧問	名譽會長
神社職員	新井前原今井大島小川千島木村村川朝関柳口新井	高野清二郎	久下原嶋石橋高野	中嶋原嶋松本鈴木	浅見新井山中大嶋	蘭田總代
外幹事四十二名	利雄祥介耕裕司孝普知真靖義行	利夫昭彦和海正司	俊彦賢(神)正(神)	修(神)建(神)	英助(神)康(神)	武史(神)雅文(神)
(社)社	(神)神(上)宮(本)熊(東)番(中)上(中)宮地	(淹)中(東)番(宮)(本)宮	(淹)中(熊)(中)中(上)木村	(淹)中(木)村(町)側	(上)宮地(町)側	(社)社(社)社
(社)社	(場)場(地)町木町場(町)町	(上)村	(上)木村	(町)町	(町)町	(町)町

新人紹介

巫女見習 新井咲野

祖父の時代からのご縁もあり、巫女見習としてこの四月より奉職させて戴くことになりました。



昭和5年2月21日生  
秩父市野坂町出身  
秩父東高校卒業後奉職  
趣味 茶道・読書

実習生 甲田 豊治  
「秩父の妙見様」といった話をしています  
事を覚えて行っています  
事を覚えて行っています、実習の代



昭和42年4月28日生(27)  
狹山市人間川出身  
國學院大學文學部神道學  
科卒業  
紀州一之宮 旧官幣大社  
日前國懸神宮三年間奉職  
趣味 読書

ふくろう  
梟だより

◆ 中間報告会開催について

去る六月二十六日、当社参集殿において開催して、平成御大典奉祝記念事業奉賛会総会を開催し、中間報告がなされました。

当日、各地区奉賛会役員ほか六十名をお迎えして、平成三年度より行われて参りました各種事業の経過報告、また平成六年度以降の計画について、並びに氏子地域また法人各社からの募財状況、また奉賛金管理状況等につきまして報告が行われ承認されました。

今年度は、異なる奉賛金の募財に勤めを勤められて今日に至ります。

先代の故井上太郎翁もまた、昭和四十三年に勲五等瑞宝章をお受けになられています。当社との関係におきましても、二代に亘り奉賛会長をお勤めいただき、例大祭御神馬奉納の儀式など、特別な伝承を伝える家柄でもあります。

平成三年秋には全国神社総代会大会におきまして功劳表彰をお受けになるなど、多くのご尽力をいただき、現在埼玉県神社総代連合会副会長としてご活躍をいただいております。

◆ 中間報告会開催について

平成二年秋には全国神社総代会大会におきまして功労表彰をお受けになるなど、多くのご尽力をいただき、現在埼玉県神社総代連合会副会長としてご活躍をいただいております。

いただき、例大祭御神馬奉納の儀式など、特別な伝承を伝える家柄でもあります。

◆ 几帳奉納について

秩父市宮側町にお住まいの島田喜代子様には、この度拝殿の几帳をご奉納いたしました。

ご主人様をはじめ金物商を家業に、広く地域の為にもご活躍をいただく方、当社各種祭礼ほか諸事業につきまして、多くのお力添えをいただいております。

◆ 総参宮旅行について

広く皆様にご案内申し上げました、埼玉県神社庁また秩父郡市氏子総代会共催によります伊勢神宮總參宮旅行に、去る三月十七日より十九日（第一班）同月二十三日より二十五日（第二班）に亘り、總勢三百六十九名参加のものと意義深い總參宮旅行を実施することができます。ご協力をいただきました、氏子崇敬者の皆様方には、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

千三年にも亘り、二十年毎に綱々と続けられ、今回第六十一回式年遷宮が盛況のうちに終わり、皆様と共に奉祝の誠を捧げることが叶いましたことを心より喜ばしく思います。

◆ 小学校児童の参拝

去る六月四日、秩父第一小学校二年

◆ 氏子青年會活動報告

至自平成五年十二月  
平成六年六月

宮越松講元外二十六名  
五月九日川越松講  
三上彰講元外二十六名  
五月二十二日原谷講  
岩川福一講元外五百一名  
五月二十九日下宮地講  
根岸恒太郎講元外九十四名  
六月九日白岡妙見講

関口ミツ代講元外三百二十八名  
五月一日上蒔田講

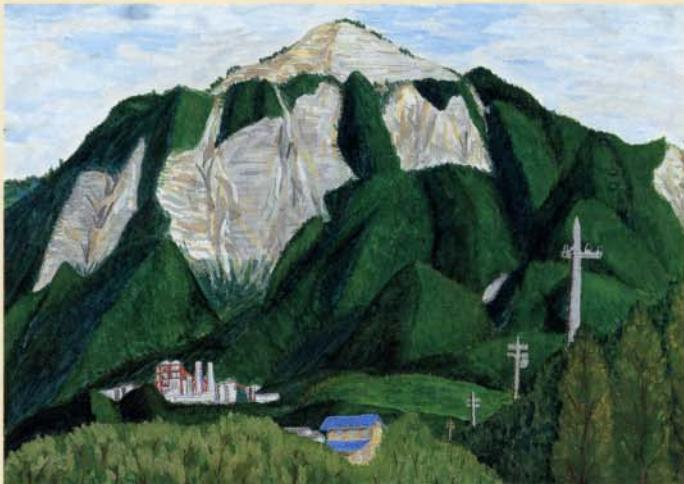
二月十二日温旧会秩父神社  
関根巧元講元外二十名

◆ 秩父妙見講

◆ 職員辭令

巫女見習 武井真理子、巫女を命ず。  
甲田豊治、実習生を命ず。  
新井咲野、巫女見習を命ず。  
(四月一日付)  
(四月一日付)

◆ 氏子青年会活動報告	
十二月	自 平成五年十二月 至 平成六年 六月
三月	飯田鉄砲祭り視察
四月	山田春祭り視察 浅草探訪の会
五月	伊勢神宮總參宮旅行(一泊二日)
六月	全国氏子青年協議会 関東ブロック大会参加
平成六年度総会	『新旧役員交代の件』承認 夏祭りを考える会勉強会 国立歴史民俗博物館研修旅行 ※各種恒例祭、助勤奉仕



## 表紙について

今回、表紙また背表紙に掲載された絵画は、武甲山の自然を守り、その環境保全と動植物保護の啓蒙普及をテーマに、秩父市教育委員会（教育長 黒澤哲夫様）、武甲山植物群保護対策推進協議会（会長 清水武甲様）主催により募集された、「第二十三回作文・国画公募展」において入賞された作品です。

表紙は会長賞を受賞された、番場町にお住まいの岡田亮介くんの作品です。お兄さんと一緒に、一年生の夏休みに描いた絵が、今回出品での入賞となりました。所々、茶色く赤く見えるのは、武甲山に発破が仕掛けられて爆発しているところだそうです。今夢中なのはサッカー。

好きなJリーグチームはガンバ大阪だそうです。

背表紙は教育長賞を受賞された、上宮地町にお住まいの内田功一家のご子息、秩父第一中学3年生の内田貫一くんの作品です。

小学校一年生の時から武甲山と夜祭りを題材に描き続け、昨年の夏休みに取り組んだ作品が今回の入賞となりました。貫一くんの祖父でいらっしゃる内田昌訓様は、当社冬祭りにおいて宮地大行事長を勤められ、夏祭り神輿奉納者にも名を連ねる篤志家でいらっしゃいます。

貫一くんも昨年の冬、お爺様お父様に倣い、宮地屋台の奉仕方として初めてお祭りに参加されたそうです。「神社は僕等にとってもシンボルのような存在です」と語られました。

## 行事のご案内

七月	二三日	川瀬祭宵宮
十一月(上旬)	三日	七五三詣
十一月三日	一日	機業祖神祭
十一月一日	一日	御本殿御清淨之儀
十一月一日	一日	例大祭奉行祈願祭
九月二七日	二七日	境内諏訪神社例祭
九月二六日	二六日	境内諏訪神社宵宮
九月九月	二七日	境内諏訪神社例祭
九月二七日	二七日	御神馬奉納之儀
九月二七日	二七日	新穀奉獻祭
九月二七日	二七日	諏訪渡神事
九月二七日	二七日	御神馬宮詣
九月二七日	二七日	例大祭
九月二七日	二七日	御神幸祭（秩父夜祭り）
九月二七日	二七日	蚕糸祭
九月二七日	二七日	産業発展交通安全祈願祭
九月二七日	二七日	新穀感謝祭
九月二七日	二七日	例大祭完遂奉告祭
九月二七日	二七日	天長節祭
九月二七日	二七日	お正月様授与所開設予定
九月二七日	二七日	大祓式
九月二七日	二七日	お正月様授与所開設予定
九月二七日	二七日	新春祈願斎行
九月二七日	二七日	元始祭
九月二七日	二七日	恵比寿大黒天祭
九月二七日	二七日	節分追儺祭
九月二七日	二七日	各種行事につきましてご質問また申し込み等ございましたら社務所までお問い合わせ下さい。

## 編集後記

■新緑の緑に包まれて、御神門の朱が一際鮮やかに照り映える季節。今年も川瀬祭りを迎えることができました。ここに社報『作乃杜』第十号をお届け致します。

■常日頃、慣親しんでいる武甲山の姿を子どもの目を通して見た時に、実に雄大な感じすら致します。私たちが日常生活の中で見失いがちな事を、子どもならではの観察眼で表現しているのでしょうか。

■我が将来、四人に一人が高齢者という本格的な高齢社会を迎える事について様々な提言がなされていますが、最新版の「厚生白書」においては、今日の未婚率の上昇等に起因する少子化の傾向に対し警鐘を鳴らしています。

古く伝統的な大家族において培われてきた考え方があるが、こうした現代にあってその新しい意味を求められているようです。「子は宝」、敬神崇祖の道に立ち家庭や地域が各々の立場で次世代の命を育んでこそ、国の繁栄も久しいことかと考えます。

■日々の暮らしに追われる、気にも止めない些細な事を、時として考えさせられる事も少なくないと思いません。

平成六年（癸酉）七月二十三日	編集発行	秩父神社社務所
〒351-0011 埼玉県秩父市番場町1-11	TEL (049) 231-0262	FAX (049) 241-5596
印刷所 有限会社拡文社印刷所		
〒351-0011 秩父市東町2-71-8		

秩父神社御大典奉祝事業

自 平成五年十月三十日 至 平成六年六月末日現在  
(敬称略・順不同・但し金一万円以上奉納者)

奉贊者御芳名  
(4)

柳原坂上井仲田黒八木輝男タピックスジャパン(株)、原柳原坂上井仲田黒八木輝男タピックスジャパン(株)、原留雄光治ヤス明克六加惠

近戸地区

金五十万円	児玉工業機器玉高則
浅野 弘一	金六十五万円
荒船 たけ	兒玉工業機器玉高則
木村 昭一	金二十万円
平澤組	久喜健位知
(株)福寿屋福嶋政子	(株)トウ・プラス淺賀朗夫
山本組平山富司	淺賀 良子
好 久	鶴見

大堅 小池 伊藤 久米 馬場 伊藤書店  
公男 よし 敦也 キヌ  
小石川書店  
北堀 山中 野中 飯島 中島 泉 啓市 国光  
五三郎 盛夫 悅子 孝 サダ  
北堀山中野中飯島中島泉啓市国光  
五三郎盛夫悦子孝サダ

金五万円	浅賀	飯島	池田	小池	重裕	文一郎
明石	浅賀	島崎	島崎	島崎	克生	初男
井上	新井	市川	島崎	島崎	佐佐木	藤崎
内山	飯塚	喜美雄	島崎	島崎	辰二	ベニヤ
片山	井上	秀次	島崎	島崎	ヤマワ	合板機
円城寺	内山	浩二	島崎	島崎	横田	昇
道夫	片山	剛二郎	島崎	島崎		
高野	今朝男	和男	島崎	島崎		
門間	賢一	義一	島崎	島崎		
高野与四郎	達	久吉	島崎	島崎		
宗次	金一	明恵	島根	島崎		
浜田	右助	雄司	関根	島崎		
手島	昭一	義一	高野	島崎		
原島	久吉	久吉	与四郎	島崎		
宮谷	昭三	義一	宗次	島崎		
山寄	通男	嘉男	高野	島崎		
米沢			門間	島崎		

金十万円 浅賀一郎  
飯島文雄 池田重裕 小池初男 近藤伊佐雄 島崎辰二  
(有)ベニヤ笠原興吉 ヤマワ合板(株)若林富泰 横田昇

金三万円 拓浅賀阿左美フサ浅見亀義弘新井広太郎岩田大沢岡田笠原河端新井広太郎若林吉田横田吉田喜三郎繁伸英三正幾廣耕一昭夫義夫哲也喜也貢功清作義昭勇徳政三スエ高橋根関根近藤喜也島崎英次郎寺中直江西村根岸蓮見福井逸見宮城横田勝男邦誠廣邦

阿保地区

金二万円

島田 松澤 大谷津和義 一雄 源作  
 小澤 堀口 高橋 澤口 知良 土雄 偉助 吉次  
 新井市三郎 善作 松澤 あ保 初夫 阿保  
 (有)見晴亭 豊 長谷川 豊 強矢クリーニング店  
 高麗屋支店 新井 トヨ 新井 富次郎 實助栄  
 島田 松澤 新井 沢口 トヨ 喜  
 豊田 長田 島田 新井 嘉茂 男清  
 飯島 金 金 敏行 正平 志一 隆志  
 富田 金 金 久和夫 久敏行

金庄伊古田満夫英一  
山本田口新井黒沢関口新井  
飯島清彦達彦真二  
（株）ソーラー光道セツ  
秀男富春方良正治和雄加藤堺大谷賀阿保浅井新井

山中島田高野楮本格本橋周治実嘉助倉茂三郎内田柴崎町田松澤宮本新井恒三郎幸男久雄徳造義一基夫孝一男呂一幸雄清人勇助

金三万円

原島昌平	引間和彦	松沢福太郎	昌平
鈴木勝弘	島田睦可	佐藤武市	佐藤
山崎高夫	千島小指	土屋袈裟治	山崎
佐藤喜久	五十嵐正昭	島崎喜久	佐藤
高次昇	長谷川進	新井達男	高次昇
武市小指	中野阿保	宮原辰三	武市
睦可昇	松木郁廣	堀口好文	堀口
和彦喜久	辰三折	件宏好文	和彦
昌平昇	洋二	久	昌平
詣訪地区			
金五万円	金三十五万円	関根堀口	引間浅見堀口
義正	治雄	洋二	洋二

(有)三友電気工業事  
士師 幸夫 宮下 春治 持田 智  
新井 浅賀 正土 松本 賢治  
田名部 武雄 高野 稔 高橋 重機  
内田 長次郎 西 公四郎 斎藤 一隆  
小池 甲子男 小阪 弥兵衛 山田 文四郎  
浅見 貞之 久 島崎

天坂重夫  
黒澤公男  
内田友則

堀浅野新堀南桜向高横矢内小山堀鶴新清小浅大齊岩新浅門板武堀征秋柏横高山新黒加  
口見口井口井井橋田澤田山中口田井野久見前藤上井見田間橋井口矢山瀬田橋中井沢  
嘉輝川善保唯  
一一秀繁久正秀二義弘喜健勝宇太之寛輝重美友角修正千英広久政一三康  
博郎郎明幸雄吉夫郎一作一次栄市市助一正男雄廣治助一三昭夫清行弘満一男郎郎勇博二

齊星黒山堀村原島新引出茂北村宮田野逸高島若杉斎田鈴大相若中佐千小田萩井小松堀福  
藤澤下口越口崎井間浦木田前端原見橋崎林山藤端木野馬林野藤島林村原上寄岡口島  
和喜慶  
榮康喜和喜憲重治達孝安久光信信貞盛修竹高津光利義忠國三安完脩和有喜久  
一天夫治良雄三元作也一敏子要一貞進雄次雄作巳齊夫夫夫雄晴之夫男郎雄二市久徳八枝

引吉豊千新倉齊田堀齊田田鈴小内林糸高齊関堀引高堀加池源草引山堀齊新堀本堀引浅堀  
間沢田島舟本藤島口藤島島木林田永木藤根口間橋口藤田原間本口藤井口多口間見口  
喜喜和喜幸健次太正ズ代信広幸太与安文俊一美太喜友重勝信明孝徳治重兆文茂幸次辰辰今  
夫子雄二郎郎和エ作義土一郎吉二藏司郎光郎藏光夫夫行実徳治夫次永男雄雄郎雄吉

辺増増内青木田見田田木島代	金二万円	大浜恭口	金三万円	太福島甲	金五万円	田口	金十万円	堀口
茂忠広明岩健助		次八友子太近	浅見室	桜井見	光和電機作	倉林	小池	山中櫻
三茂徳雄治		太郎治雄郎	金室	金室	(株)洋	一雄	一雄	正治
		雄好吉雄	若林	若林	福島	義雄	金作	政治
			大浜	大浜	すいじん			
			恭口	恭口	長寿			

### 下黒谷地区

逸大杉中柴奈久小清青清水田田鈴逸田中田高高三三内内大浅福逸三逸友磯田山龜三  
見浜久田家崎良保泉野木野谷口木木見口島島田田友友田田浜見島見友田田端藤田中田  
幸森正守平孝芳吉成健徳友甲一利柳幸総徳光雅善利光政雄安直伸貞太郎英茂  
夫作良正昭之実彦平実盛作博行江七郎作作三薰一治一清也之重明義一訓弘一夫  
雄

大大大小萩関小大長大森長長大大吉長中田若浅内栗小浅浅福渡浅栗逸逸田田田内内  
浜浜浜池原根池濱島浜下島島浜沢島村口林見田島林見見島邊見島見見口口島田田  
近任国祐寛忠太孝と宮喜辰正好鍋晃忠一英寅常盛義万敏虎安增頼西太福  
男夫一一好郎治夫く子一夫實光夫一儀栄栄男一雄雄一雄平雄三雄次勉三嚴勝治治郎吉

金一万円

新斉小坂落若齊武太小福田倉井田加桜鈴赤設樂塚内高青木田倉林黒沢吉岡  
 井藤久保池本合林藤田幡林島野林上口藤井木利榮邦久壽利恒弘初和國  
 光常江治三徳春一弥則三三孝達秀秋隆行利一護男一雄恭男司友一也男良一  
 治夫男作男治操吉道茂一作幸次郎作夫男男行正

萩原新三

福柳風新笛福井新山堀逸萩大田伊福大若岩古逸井福川渡杉萩杉齋鷹福萩久富大萩原  
 島間井木島上妻口見原浜口藤島市古川日若林高橋斐二郎利栄邦久壽利恒弘初和國  
 孝勝孝駿光辰利春重五俊金文五明辰健敏教峯泰晃正秀才近太功明  
 一涉治久男雄藏夫男天義治郎夫作一郎昇厚夫夫司男男一秀彦勲孝夫夫雄治之郎薰之子郎

金一万円  
原島義男

### ■上寺尾地区

萩原新三

加大大小大井大関清吉宮櫻設大古田奥小浅福根大内古野横八和出坂  
 藤浜浜池浜戸浜根水村本井業倉池久保長才直通保雄チ廣昌央正謙  
 育正尚亀丈喜竹富文清常弘唯義治一茂義則光助エ司訓男見雄勲実二昭  
 三義武夫夫翠八一男栄武雄志弘治一茂義則光助エ司訓男見雄勲実二昭

金一万円  
新井武甲  
正鉱高正清延助夫  
三業之雄

金二万円  
小坂落高橋久保  
井田浅見福治助  
関田才吉

金三万円  
新井浅見福治助  
高橋久保

金五万円  
昭和輕金屬工業(株)  
斎藤康人

金二万円  
山中一彦  
福島新井  
黑澤浅見  
才吉

金三万円  
山中一彦  
福島新井  
黑澤浅見  
才吉

金五万円  
関田喜三  
町田伸夫

金二万円  
片田隆行  
小池元英  
栗原登

金二万円  
津久井利夫  
村田軍次

### ■中寺尾地区

金二万円  
津久井利夫

金二万円  
片田隆行  
小池元英  
栗原登

金二万円  
柿堺秀夫  
山中昇平  
関田宗仲司

金三万円  
大野良雄  
堀口彦三郎

金三万円  
小池歯科医院小池基之

金五万円  
大塙大塙  
秩父地産(株)  
深田朋幸  
字作

金十万円  
(ゆめざわ商事梅澤英樹)

金十五万円  
日新陸運(株)  
武藏開発産業(株)

金三十万円  
埼玉三興(株)  
大堅豊

金五十万円  
(株)ダイショウ

中山已喜雄  
栗原直行  
小池元英  
栗原登

中口喜雄  
豊田忠治  
原島里一

中口喜雄  
豊田忠治  
原島里一

金二万円  
安類菊治郎  
戸塚政雄

金二万円  
堀口徳之助  
福島武藏  
原島里一

金二万円  
堀口徳之助  
福島武藏  
原島里一

金一万円  
猪野小池  
塗装工業  
マイハンズ武甲堂

金一万円  
大野良雄  
堀口彦三郎

金一万円  
中畠建築

金一万円  
大野良雄  
堀口徳之助  
福島武藏  
原島里一

金一万円  
大野良雄  
堀口徳之助  
福島武藏  
原島里一

金一万円  
大野良雄  
堀口徳之助  
福島武藏  
原島里一

皆野（三沢）地区

堀内山口山口山口山口山口  
飯野澤野澤野澤野澤野  
元廣恒次恒次恒次恒次恒次  
松本関口誠清次三郎正章八郎  
金十六万円原谷講役員一同  
金三万三千円岩川福一  
金二万三千円設楽銳馬  
金一万元市川貞雄  
外二十六名新井文久造  
荒川妙見講

荒川妙見講

堀内山口飯野澤野元廣弘一郎  
関口恒平三郎正章松本原谷講員六十六萬円

■ 皆野妙見講

皆野妙見講	金三万円	富田 芳子
	設楽 久江	高橋 マサ
	四方田 弘	新井 晴子
	斎藤 ヨシ	宮前はる子
	磯部 一郎	平 ハツ子
	外七十名	

神社扱名簿

■皆野妙見講

金三十万円	新井 瑞男
金二十万円	鳥井 英子 (有)黒澤瓦工業 黒澤英雄
金十五万円	白岡町妙見講
金十万円	原谷講役員一同
金六万円	N T T 秩父支店
金三万円	御獄神社
金二万円	守屋憲太郎
金一万円	御獄神社
金五千円	御獄神社
金三千円	御獄神社
金二千円	御獄神社
金一千円	御獄神社
金五百円	御獄神社
金三百円	御獄神社
金一百円	御獄神社
金五十円	御獄神社
金十円	御獄神社
金五円	御獄神社
金三円	御獄神社
金二円	御獄神社
金一円	御獄神社

秩父酒販協同組合

金五万円	浅見 新井 貞雄 松本百合子
箭弓稻荷神社	吉岡 政二
権籬宜 池永道紀	茂木 勇
諏訪神社	宮司 栗原 誠
番場商店街振興組合	柿島 浩子
落合 英明	温旧会秩父神社講
上林要太郎	上林要太郎
新井 竹子	新井 竹子
金三万円	田中かをる
小池 ミツ	浅間神社
櫻宣 井上哲雄	長谷川松代
金二万円	向井 善勝
鈴木 康司	井上 フク
山川 英男	高野 稔
	高野 ツチエ
	高野 良順
	高野 恵子
	千史子

■追加奉賛のご報告	虎見根岸重男
	折原源市
	矢島貞良
	大橋岩松
	根岸義太郎
	小崎ミネ
	藤井院子
	鈴木宏政
金十萬円(計二十萬円)	(神社扱) 北澤春子
金十萬円(計二十萬円)	(皆野講) 町田たあ
金五萬円(計八萬円)	(神社扱) 増田博延
金五萬円(計五萬五千円)	(本町地区) 彦久保嘉四次
金三萬円(計八萬円)	(大畑地区) 新井崇行
金一萬円(計七萬円)	(滝上地区) 浅野正次
金五千円(計一萬円)	(東京都) 入江重瑛
金一万円(計三萬円)	(上野町地区) 池田公雄
金五千円(計一萬円)	(中町地区) 斎藤啓藏

■追加奉賛のご報告

お詫び

■前号（第九号）掲載の御芳名に誤りがございましたので、ここにお詫び申し上げますと共に、改めて掲載させて戴きます。

平成御大典奉祝記念  
「秩父神社境内  
改修整備事業」

奉賛会役員名簿

会長  
井上久（奉賛会長）

穀部的公見

新井一永（大總代）  
斎藤信介（大總代）  
松本真一（大總代）  
宮前洋一（大總代）  
根岸恒一（大總代）  
(秩父觀光協会々長)

加藤達次郎	浅見武太郎
(秩父市町会長連合会々 員)	(秩父織物商工組合理事 内田 文男)
高橋信一郎	(秩父市農業協同組合組合 矢尾 直秀)
一柳 俊	(秩父商工会議所副会 今井 奎吾)
大久保国男	(氏子青年会 (作親睦会々員))
古野田地区	員▼
荒船 啓介	員▼
新井 稲夫	員▼
橋本 正行	員▼
大島 貞雄	員▼
秋原 ヨネ	員▼
真下 文男	員▼
根岸 光春	員▼
熊木地区) 嘉孝	員▼
千島 武一	員▼
加藤 正二	員▼
江野 守亘	員▼
平沼眞太郎	員▼
中 淳一	員▼
関口 直三	員▼
島崎 喜芳	員▼

(中町地区)	浅見
(宮側地区)	片山誠二郎 竹井正章
(本町地区)	浅賀勝彦 大島孝子
(番場地区)	増田昇夫 前堅福次郎
(上野町地区)	二木徳一 菅田篤
(東町地区)	岩田秀吉 笠原安雄
(道生地区)	河井喜芳 大川明
(新井地区)	鶴殿出浦 三友新井
(中村地区)	倉茂康夫 直彦壽之
(桜木地区)	児玉俊雄 高橋信一郎
(近戸地区)	井上繁雄 新井金三郎
門間義一	

(金室地区)	飯島 浅賀 浅野
児玉今朝春	加藤清次郎
川田 廣治	浅賀 弘之
(柳井地区)	新井征一郎
(永田地区)	加藤達次郎
栗原 昌次郎	西勝藏
(阿保地区)	嘉夫太郎
島田 源作	西勝藏
(大畑地区)	阿保初夫
岸豊	大畑
中村 義一	岸豊
山崎 康夫	中村
(滝上地区)	山崎
高野 明治	千島
高野 勝男	斎藤
(上宮地地区)	今井
関根 章	多市
関根 啓三	楽次
(中宮地地区)	文吉
山口 清	高野
山崎 隆三	加藤
(下宮地地区)	定夫
黒沢豊次郎	根岸恒太郎

(相生地区)	新井	根岸
宮城	宮城	常雄
宮城	昇一	信之
横田	幸藏	
(別所地区)	井上	
(宮崎地区)	富田	利吉
黒澤	悦二郎	
昭次郎	原島	
関口	根本	
大野	森次	
喜一郎	廣目	
小池	原島	
康平	原島	
(大野原地区)	大野	
荒船	喜一郎	
青野	喜一郎	
堀口	忠治	
若林	喜一郎	
関根	喜一郎	
清野	喜一郎	
設楽	喜一郎	
(下黒谷地区)	銳三郎	
大浜	守一郎	
恭次郎	守一郎	
福島	洋	
田口	洋	
大沢	幸作	
大田口	八郎	
(上寺尾地区)	長義	
寺尾	洋	
原島	貞真	
笠原	茂昭	
佐藤	章一	

(中寺尾地区)	長島幸一
内田辰藏	黒沢有一
八木新作	八木新作
東目清治郎	古峰久
辰治保	関根正晴
内田勇	萩田辰治
下寺尾地区	下寺尾地区
島崎清	内田保
内田徹太郎	内田辰治
勇	萩田辰治
(下寺尾地区)	(下寺尾地区)
島崎清	内田辰治
内田徹太郎	内田辰治
勇	萩田辰治
(下寺尾地区)	(下寺尾地区)
島崎清	内田辰治
内田徹太郎	内田辰治
勇	萩田辰治
(中寺尾地区)	(中寺尾地区)
大久保卯恵作	大久保卯恵作
富田幸寅	富田幸寅
島田亘宏	島田亘宏
風間芳朗	風間芳朗
恒明	恒明
宮前信雄	宮前信雄
由夫	由夫
伸二	伸二
今井伸二	今井伸二
平野由夫	平野由夫
(田村地区)	(田村地区)
福島米一	福島米一
正一	石渡正一
引間彦四郎	引間彦四郎
達之	石渡達之
(上山田地区)	(上山田地区)
浅見武太郎	坂本始喜
関谷正男	関谷正男
一夫	坂本始喜
(中山田地区)	(中山田地区)
橋本徳三	橋本徳三

(下山田地区)	町田
田端	北堀
関根	敬造
宮城	富雄
(板谷本地区)	（板谷本地区）
石原	田端 達夫
(板谷地区)	梅澤 正雄
坂本	元治 操
萩原	浅見 喜七
(定峰地区)	坂本 正夫
磯田	萩原 謙幸
内田	磯田 利章
小久保隆男	内田 博芳
長井	永田 嘉昭
(太田上地区)	富田 義平
今井	永田 嘉昭
柴崎	（伊古田地区）
鳴村	園田 豊平
関根	園田 豊平
(品沢地区)	（品沢地区）
市川	廣次
富田	八朗
(小柱地区)	小池 三津
新井	新井 錦志
(宮本地区)	関田 武

(栄地区)	新井	黒沢	幸助
(大沼地区)	関口	仲司	登
戸塚	政雄	宇作	大瑠
堀口彥三郎	豊田	虎次	(八幡地区)
寺沢	浅見	岩司	旭地区
村山	登次	勇	江田
(巴地区)	島田	謙藏	福島
石川喜代治	知親	武一	江田
(森川地区)	島田	武男	福島
浅見	重之	謙藏	江田
(南地区)	児玉	長吉	福島
(三沢地区)	横田	英夫	島田
浅見	清	重之	島田
柳沢	卓夫	知親	島田
浅賀	(福間税理士)	謙藏	江田
勝彦		武一	福島
山中	(氏子青年会)	英夫	島田
雅文		重之	島田
(埼玉県知事)			島田

◆ 募財委員会名簿	▲ 事務局▼	▲ 委員長▼	▲ 委員員▼	▲ 相談役▼
小池 清	浅見 武史（楠宜）	井上新一郎 (県議会議員)	栗原 稔 (県議会議員)	加藤 卓二 (衆議院議員)
新井 久	外神社職員	山口 仁平 (県議会議員)	内田 全一 (秩父市長)	加藤 博康 (秩父宮会々長)
井上 一夫		富田 孝 (横瀬町長)	栗原 隆 (秩父セメント社長)	蘭田 武男 (名譽宮司)
		仁杉 廣 (西武鉄道(鶴)社長)	宇野 潤 (秩父鉄道(鶴)社長)	

建設委員会名簿		建設小委員会名簿		委員長▼		副委員長▼		委員▼	
浅見	武太郎	新井	一夫	宮前	洋一	坂本	眞一	井上	久
矢尾	信一郎	矢尾	直秀	高橋	信一郎	高橋	信介	小池	清久
丸岡	只一	蘭田	一郎	信	一郎	信	一郎	斎藤	清久
土屋	武史	坂本	一郎	一柳	俊一	一柳	俊一	矢尾	一郎
高橋	信一郎	才	一郎	坂本	才一郎	坂本	才一郎	坂本	才一郎
蘭田	只一	格	男	高橋	信一郎	高橋	信一郎	高橋	信一郎
浅見	武史	丸岡	只一	新井	一夫	新井	一夫	新井	一夫
武史	只一	蘭田	只一	坂本	一郎	坂本	一郎	坂本	一郎

◆募財委員会名簿

◆建設小委員会名簿

※ご芳名並びに奉贊金につきましては、誤記のないように注意をいたしておりますが誤りがございましたときは、ご連絡、ご指導、頂きますようお願い申し上げます。



〒三六八  
連絡先  
秩父市番場町一ノ一  
秩父神社社務所  
TEL(0498)24-0262  
FAX(0498)24-5556